

## 臨床研究へのご協力をお願い

東京医科大学病院 救命救急センターでは、下記の臨床研究を東京医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、学長の許可のもと、愛知医科大学シミュレーションセンターを主施設とする多施設共同研究として実施いたしますので、研究の趣旨をご理解いただきご協力をお願いいたします。

この研究の実施にあたっては患者さんの新たな負担(費用や検査など)は一切ありません。また個人が特定されることのないように個人のプライバシーの保護には最善を尽くします。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究にカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。不参加のお申し出があった場合も、患者さんに診療上の不利益が生じることはありません。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

### [研究名称]

予期せぬ院内心停止を予防する Rapid Response System 構築と教育プログラムの開発

### [研究の背景]

病院内で予測外の原因で、呼吸や脈拍が止まってしまうような緊急事態の発生を予防するために、早期に状態の悪化のサインに気づき、対応するシステムを、ラピッドレスポンスシステム(院内迅速対応システム)といます。このシステムは、オーストラリア、アメリカを中心に 1995 年頃から始まりました。医療安全に欠かせないシステムで、わが国では 2000 年頃から導入が始まっています。

当院では、2002 年から、予測外の緊急事態への対応を、救命救急センター・集中治療部の医師、看護師を中心としたチームによる「院内急変対応システム」として運用しており、すでに緊急事態への対応は整っていますが、さらに予防に力を入れたシステムの拡充が必要と考えています。また、呼吸や脈が止まってしまう1~4 時間前には何らかの徴候があることは、すでに明らかになっており、その徴候の速やかな発見のためにも、医療従事者並びに学生への教育プログラムの開発が必要です。

今回、当院と同様に早期から「院内急変対応システム」を運営していた愛知医科大学病院が、2020 年 1 月から、予防に力を入れたシステムの運用を開始し、教育プログラムを開発する研究を主として実施することとなりました。そこで、私たちはこの多施設研究に協力し、当院でも予防に力を入れたシステムへの拡充に取り組みたいと考えています。

多施設で、院内迅速対応システムの運用や教育プログラムの開発を検討・共有することは、特定機能病院としての、よりよい院内迅速対応システムの構築と質の向上に寄与するといえます。

## [研究の目的]

診療録を用いて、疾患の頻度や分類、臨床的な特性、ケアの効果、安全性等に関して適切な解析を行うことにより、新たな診断法、治療法、予防法等を検討する資料とします。他の方法で収集が困難な情報も含めて解析することで、疾病の予後や生活の質の改善、または健康の維持、増進に資する知見を得ることを目的にしています。

## [研究の方法]

### ●対象となる方

2002年から5年間および2018年から2019年までに院内急変対応を必要とした患者さん

### ●研究期間

研究許可日 ～ 2022年3月31日

### ●利用するカルテ情報

発生場所、要請者の職種、要請の主な内容、行った処置、患者の移動先の有無、患者の転帰

これらのカルテ情報を用いて解析を行います。

### ●情報の管理

情報は匿名化を行って、直ちに個人が判別できる情報は含まれないよう加工されます。匿名化された情報から研究対象者を識別できる対応表は、研究責任者の指示に基づき施錠された場所またはパスワードで保護された電子情報として保管されます。保管期限は研究終了または論文公表から5年間です。

診療科(部署)名	救命救急センター(EICU)
情報の管理者名 (研究責任者または研究分担者)	佐伯悦彦

## [研究組織]

	職名	氏名	研究における役割
研究責任者	看護師	佐伯悦彦	データ収集、解析
研究分担者	看護師	松本美保	データ収集、解析

## [問い合わせ先]

相談窓口	担当者名	佐伯悦彦 または 松本美保
	住所	東京都新宿区西新宿 6-7-1
	施設名	東京医科大学病院
	診療科(部署)	救命救急センター(EICU)
	電話番号	03-3342-6111

